

## (市政への市民参加)

修正③ (4/10時点)

(市政への市民参加)

第6条 市民は、市政に参加する権利を有する。

2 市は、市政における重要な事業、計画、条例について、その政策過程（課題の特定、解決案の検討、決定、実施、評価等）の多様な段階で市民の参加を得るよう努めなければならない。

3 市は、市民参加の機会の拡充に努め、誰もが参加しやすい対話や意見交換の場となるよう手段を講じ、その意見に誠実に応答することによって参加が実りあるものになるよう努めなければならない。

4 市民は、市政に参加しないことを理由として、不当な扱いを受けることはない。

## 【解説】

本条は、市政の基本原則として市民参加について規定したものです。

第1項では、主権者である市民に市政に参加する権利があることを定めています。

第2項では、市民の参加を得て市政を進めていくために、市民参加の対象について定めています。

第3項では、市民参加の機会を拡充すること、市民誰もが参加できるように手段を講じること、その意見に誠実に応答することについて定めています。

これまでも市民参加の取り組みは行われておりましたが、参加する人、意見を言う人の顔ぶれがいつも同じといった声も聞かれます。より多様な市民が参加できるよう参加の機会の拡充を図ることが重要です。また、市に対する要望、提案などを見える化した「ひみボイス」、「市民の声・市民要望システム」などを導入し、より一層、市民の意見や要望の把握に努めておりますが、意見を一方的に聞くだけでは、市民にとって実りあ

修正④ (4/24時点)

(市政への市民参加)

第6条 市民は、市政に参加する権利を有する。

2 市は、市政における重要な事業、計画、条例について、その政策過程（課題の特定、解決案の検討、決定、実施、評価等）の多様な段階で市民参加の機会を拡充するよう努めなければならない。

3 市は、市民参加を実りあるものとするため、誰もが参加しやすい対話や意見交換の機会となるよう手段を講じ、市民の意見に誠実に応答しなければならない。

4 市民は、市政に参加しないことを理由として、不当な扱いを受けることはない。

## 【解説】

本条は、市政の基本原則として市民参加について規定したものです。

これまでも市民参加の取り組みは行われておりましたが、参加の機会は形式化しやすいこと、参加する人、意見を言う人の顔ぶれがいつも同じといったことが指摘されています。市の政策の多様な段階で、市民の声が寄せられる機会の拡充に努めること（第2項）、より多様な市民が参加でき、その声に責任を持って応えること（第3項）により、市民参加による市政を実現することを目指します。

第1項では、主権者である市民に市政に参加する権利があることを定めています。

第2項では、様々な段階で市民参加の機会が拡充していくよう市が努力することを定めています。

第3項では、市民参加の機会を実りあるものとするための、機会のあり方について定めています。市に対する要望、提案などを見える化した「ひみボイス」、「市民の声・市民要望システム」などを導入し、市民の意見や要望の把握に努めておりますが、意見を一方的に聞くだけでは、

## （市政への市民参加）

る参加とはいえません。すべての意見が成果に直接結びつくわけではありませんが、市長らが各地域へ行き地区要望の進捗状況や重要な施策について意見交換等をする「市長のふれあいトーク」や、新市庁舎移転整備事業、氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定事業などのように、対話やワークショップなどを通じていただいた課題やアイデア、視点などに対しては、誠実に応答することが重要です。

第4項では、参加は権利であって義務ではないことから、「参加しないことを理由として、不当な扱いを受けることはない」ことを定めています。

市民にとって実りある参加とはいえません。市民の意見も対立しますし、実現できない要望もあります。いただいたすべての意見が成果に直接結びつけるという意味ではありませんが、市民参加のを通じて寄せられた課題やアイデア、視点などに対しては、市としてどう考えるか誠実に応答することが重要です。

市長らが各地域へ行き地区要望の進捗状況や重要な施策について意見交換等をする「市長のふれあいトーク」や、新市庁舎移転整備事業、氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定事業など、対話やワークショップなどの手法も充実させてきました。市民の声を誠実に受け止める市民参加が求められます。

第4項では、参加は権利であって義務ではありません。みずからの意思で誰からも強制される性質のものではないことから、「参加しないことを理由として、不当な扱いを受けることはない」ことを明記し確認しています。